

おかもとまさお
岡本真砂夫さん

大学院修士課程
 文化表現系教育コース
 [言語系教育分野(英語)]2年

昭和46(1971)年、神戸市生まれ。平成7(1995)年に兵庫県公立小学校の教員となる。11(1999)年ごろから小学校の外国語活動の授業研究を始める。24(2012)年、大学院入学前に受けたTOEICスコアは970点。



↑ホームページ「たんぽのお家」で公開している教材や授業実践例はこれまでに数回、TOSSから表彰された

たんぽのお家

「W hat is color?」「Red!」の音声とともに、モグラたたきゲームのように穴から次々に食べ物飛び出し、赤い物をクリックすると得点が入る。自身のホームページには小学校外国語活動に関する自作教材や授業実践のレポートが並ぶ。

「教材はパワーポイントやフラッシュで作っています。全国の先生方から『使っている』という声を聞くと励みになりますね」

外国語活動の授業について研究を始めたのは、先行モデル校で授業がスタートした平成11(1999)年ごろ。父親の転勤で4歳から約3年間にニューヨークで過ごした経験から、英語でコミュニケーションを取ることの楽しさを伝えたいと思った。

「私自身、アメリカ人の同級生との日常会話から英語を覚えたように、聞く・話すに主眼を置いた授業が英語に慣れ親しむ第一歩だと考えました」

先輩教員に誘われ、授業方法の開発に取り組み教員の団体、T.O.S.S.に入会。研究の発表を目的にホームページを立ち上げるとともに、定期的に授業

実践の勉強会に参加するようになった。

14(2002)年、勤務校にプロジェクトが導入された際には、「教材開発の可能性が大きく広がった」と振り返る。「授業では子ども同士で会話する時間を設けていて、その時にイラストを表示するとスムーズに言葉が出るという効果がありました。外国語活動にICT機器は欠かせない存在です」

質の高い授業を目指す一方、「子どもに教えるからには英語の基本を正しく身に付けなければ」と、22(2010)年に英検1級を取得。そして昨年、大学院への入学を果たした。

現任校の姫路市立城東小学校では週1回、研究授業に取り組んでいる。アメリカの言語学者、マイケル・トマセロが提唱する乳幼児の言語獲得の理論を応用し、英文の復唱やカードゲームなどを経て、児童の発音が滑らかならなっていく過程について検証している。「大学院での学びは想像していた以上に奥が深いです。この経験は現場に戻ってから絶対に生きてくと思います」

**教材開発や
 授業研究を重ね
 英語の楽しさを
 伝えたい**

